京都府立京都学・歴彩館 海外若手研究員による
府民向けセミナー（開催報告）

2026 年 10 月６日
京都府立京都学・歴彩館
０７５−７２３−４８３５

京都府立京都学・歴彩館では、世界とつながる京都学の研究・交流拠点をめざし、国内外からの幅広いアプローチにより京都文化の普遍的な価値を研究、発信するため、2017 年度から、日本研究・京都研究の優秀な海外若手研究者を京都学研究員として招聘しています。

このたび、２０２６年度の京都学研究員による府民向けセミナーを下記のとおり開催しましたので報告します。

記

■ 日　　時　　２０２６年１０月６日（火）　１３時半～１４時半
■ 場　　所　　京都府立京都学・歴彩館 小ホール
■ 講　　師　　京都学研究員　マリナ・パンドルフィノ（フランス）
■ テ ー マ　　「吉田兼倶と『日本書紀』―学問と私利が織りなす講釈」
■ 参 加 者　　計９６名

■ セミナーの様子

応仁の乱後、神祇官の次官であった吉田兼倶は幅広く活躍した。『日本書紀』や「中臣祓」に関して講釈を行い、新たな神道流派「唯一神道」を創立し、様々な教典を執筆した。その活動を通じて、唯一神道の教理を京都の公家社会に普及させた。

本セミナーでは、吉田家が神祇官に仕えて卜占を専門としたト部氏の家系であり、ト部氏における『日本書紀』や古典の研究成果が兼倶の講釈の基盤であったこと、また、古典の専門家として兼倶が行った『日本書紀』講釈は、京都の貴族にとって大切な学問の場であると同時に、兼倶にとっては吉田家の正統性をアピールして地位を高める場でもあったこと、そして、講釈のおかげで兼倶の教義が公家社会に浸透したことがわかりやすく解説された。

なお、講師の発表の後、質疑応答が行われ、研究者と参加者の交流を図りつつ、京都学の研究内容についての理解を深めた。

■ 参加者コメント（抜粋）

- 「吉田神社という身近な神社にまつわる研究で興味深かった。」
- 「吉田神道や兼倶のことを多くの人に伝えてくださりありがとうございます。質問もよく出て、わかりやすく面白かったです。」
- 「非常にわかりやすく理解できた。内容がよくまとまっていた。」
- 「専門性の高いテーマながら明確に答えを導きだし非常に理解しやすかった。」
- 「普段あまり考えたことのない分野でしたが、非常に興味深かったです。」
- 「吉田兼倶のことはよく知らなかったので、とても勉強になりました。吉田神社が昔、隆盛していたという話を聞いたことがあるのですが、兼倶がその基盤を築いていたのかなと思いました。」
- 「初めて知る話が多く面白かった。質疑応答によってさらに興味深いことを知れた。」
- 「吉田家、神道、兼倶の講釈、古典研究をされましたことに感謝申し上げます。」
- 「日本語話術も、内容もわかりやすく、とても良かった。」
- 「深く研究されて素晴らしいです。」
- 「とてもわかりやすく楽しく聞くことができました。」

- 「初心者にもわかりやすく、要点が簡潔に整理されていて、声も綺麗で聞きやすくとてもよかったです。ありがとうございました。」
- 「唯一神道の知識がないので難しかったが、日本語が大変上手で、スライドも見やすかった。」
- 「説明がうまく理解できた。日本語が完璧で感心しました。」
- 「日本人も知らない内容や原文を読まれていて、深い洞察もお持ちなので感動しました。」
- 「今回のテーマは素晴らしく、またわかりやすい解説でした。」
- 「質疑応答も的確に答えられていて勉強になりました。」

府民向けセミナーの様子







